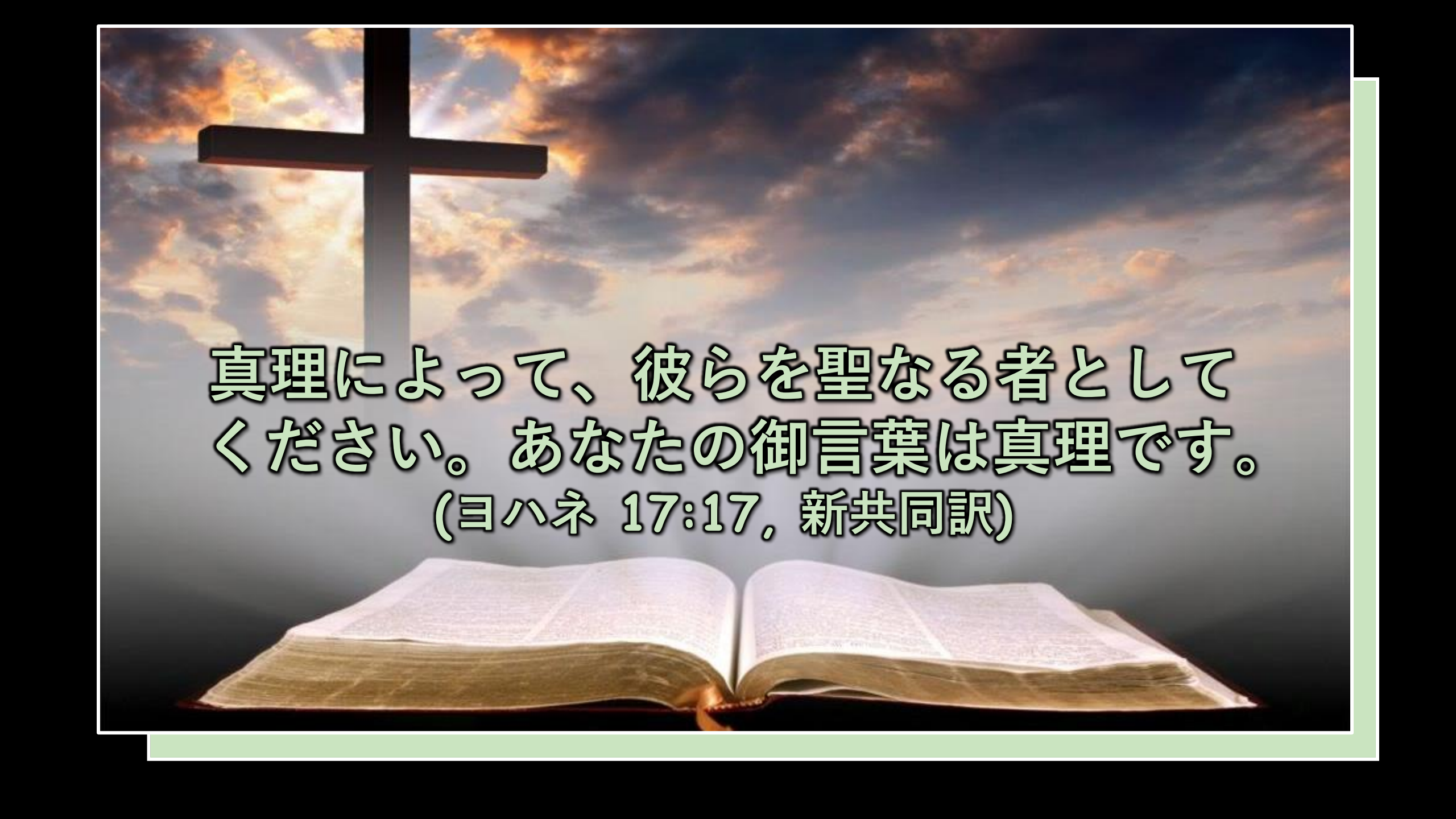


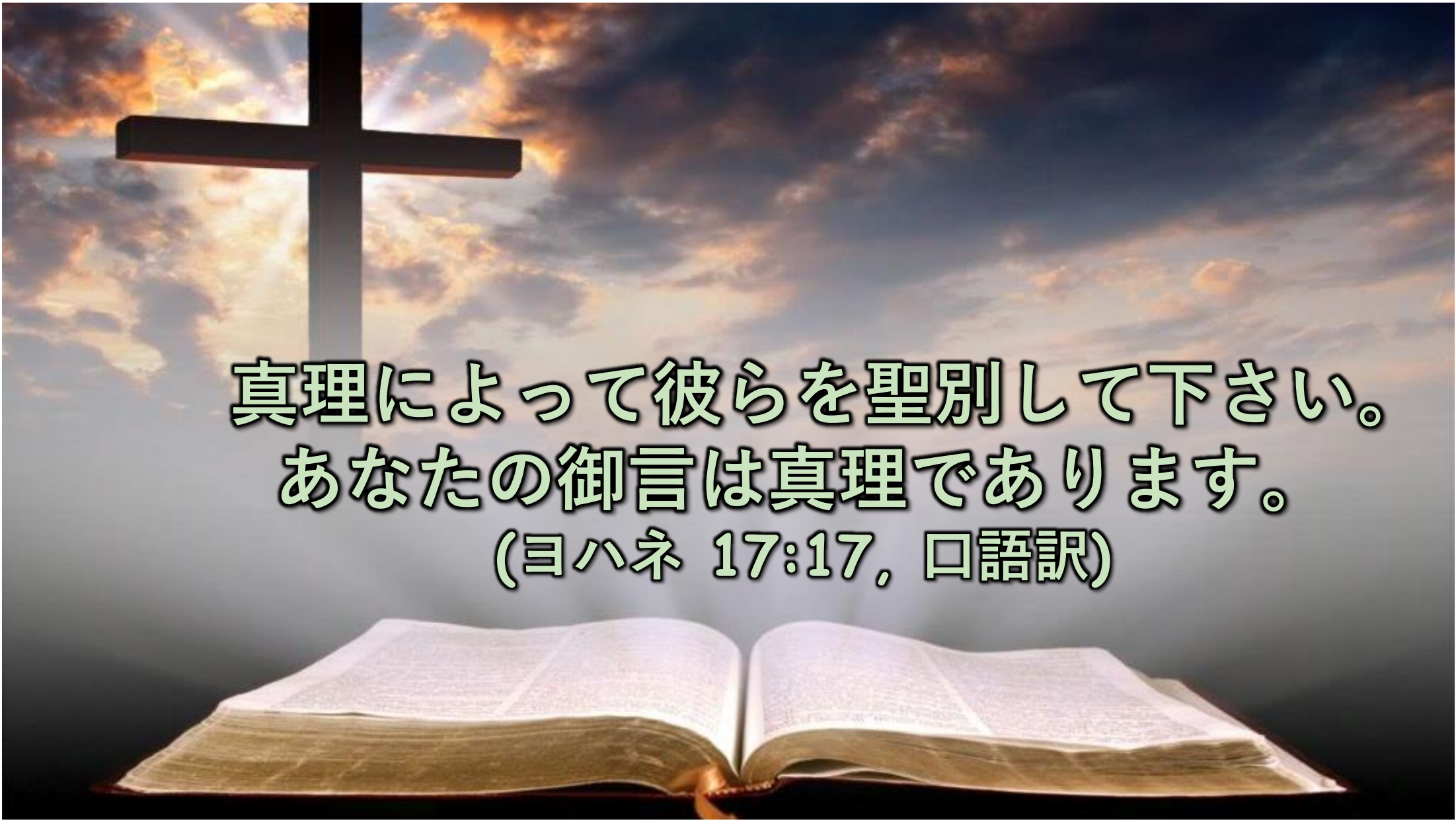


差し迫った争い

2024年6月15日 第11課

A wooden cross stands against a dramatic sky with orange and blue clouds. In the foreground, an open Bible lies flat, its pages illuminated by a soft light. The text is centered over the image.

真理によって、彼らを聖なる者として
ください。あなたの御言葉は真理です。
(ヨハネ 17:17, 新共同訳)

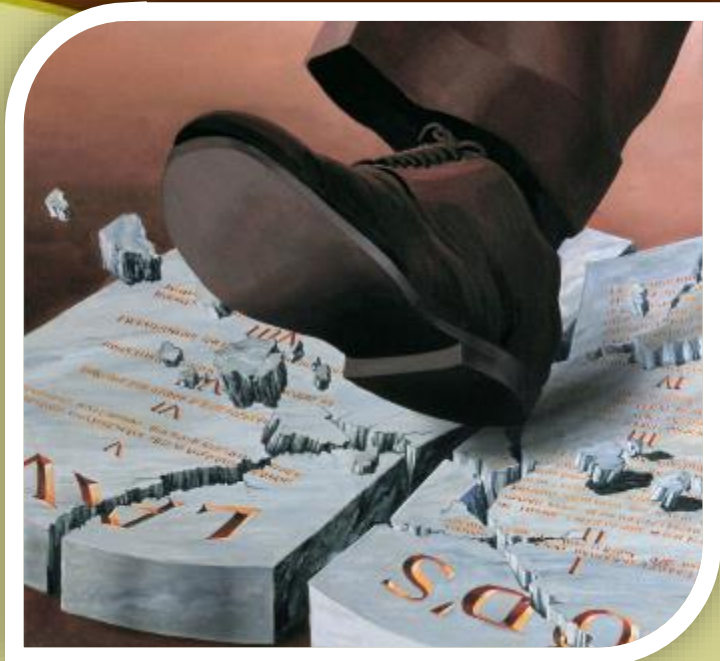


真理によって彼らを聖別して下さい。
あなたの御言は真理であります。
(ヨハネ 17:17, 口語訳)

何世紀もの間、キリストとサタンの戦いの中心は礼拝だった。
神を礼拝するか、神の人格の概念を損なう何かを礼拝するかのどちらかです。

偽りの神の概念を提示することで、サタンは人々、教会、国家を利用し、
創造主を礼拝したいと願う人々を破滅させることに成功した。

神の律法などの基本的な真理は歪められ、あるいは（安息日の場合は）ほ
とんど忘れられている。最後の戦いは、真の安息日における真の礼拝を
中心に展開する。サタンがこの最後の戦いに用いる力を紹介しよう。




 最後の争い:


 礼拝

 不寛容

 敵の正体:

 竜の玉座

 癒えた傷

 小羊と竜

最後の争い、

礼拝

「主よ、わたしたちの神よ、／あなたこそ、／栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方。あなたは万物を造られ、／御心によって万物は存在し、／また創造されたからです。」（黙示録 4:11）



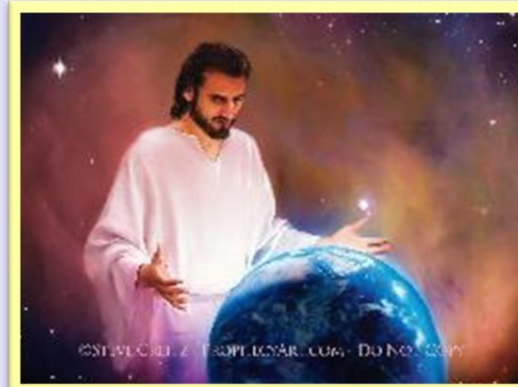
天の住人たちは、その創造力のゆえに神を崇拜する（黙4:11、ヨブ38:6-7）。

神は私たちの礼拝を受けるために、創造主であり贖い主であるご自身を示される（イザ45:6-7、18-20、65:18）。

最後の世代に宣言されたメッセージは、創造主としての神を礼拝するように世界を招く（黙14:7）。

サタンは、「獣」によってこの世の礼拝を得ようとし、その獣に、自分が普遍的な礼拝を受けることができる像を「創造」する力を与えようとする（黙13:2、4、14-15）。

このような時に安息日が論争の的となるのは驚くことではない。「神の戒めとイエスの信仰を守る」（黙14:12）人々は、神の創造を記念する日に神を礼拝する。



日曜日

あなたにとって安息日は、どのような意味がありますか？礼拝はあなたの生活において、どれ程の優先順位を占めているのでしょうか？

不寛容

人々はあなたがたを会堂から追放するだろう。しかも、あなたがたを殺す者が皆、自分は神に奉仕していると考える時が来る。(ヨハネ 16:2)



私たちの闘いは肉体的なものではなく、霊的なものです(エフェ6:12)。私たちは肉体的な武器を用いず、霊的な武器を用いる(2コ10:3-5)。しかし、敵は私たちに対して物理的な武器を使うことをためらわない。

信仰者には「災い」がある。信仰深い教会には、サタンの激しい攻撃が生じるものだ(黙12:12)。彼にとっては、どんな武器でも有効なのだ。

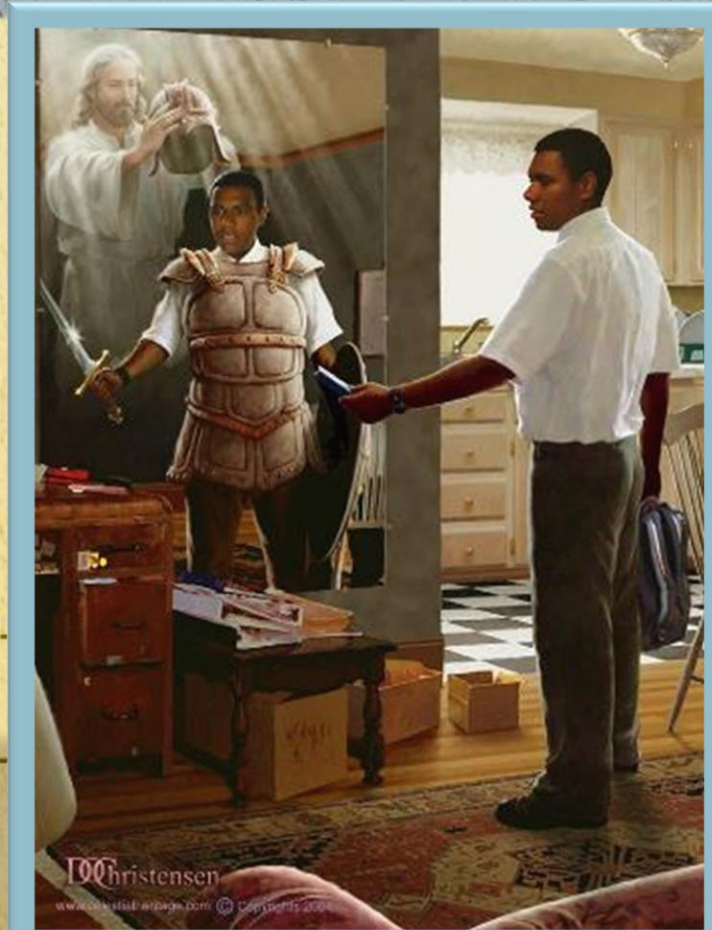
彼は私たちの傾向を通して私たちを誘惑する(ヤコ1:14)

彼は巧妙に私たちを欺く(2コ4:3-4)。

親しい人を使う(マタ10:34-36)

彼は打ち、脅す(使5:40)

極端な暴力を用いる(ヨハ16:2)



歴史上、彼はこのように行動してきた、欺きと策略(黙13:13-14)、経済制裁(黙13:16-17)、彼を礼拝しない者への死の宣告(黙13:15)。

月曜日

迫害や、最後の試練について、
あなたが今できる準備は、
何だとおもいますか？

敵の正体

竜の玉座

竜はこの獣に、自分の力と王座と大きな権威とを与えた。(黙示録 13:2下句)

竜はサタンと特定されている(黙12:9)、その力を行使する獣は、ダニエル書7章の第4の獣(獅子、熊、豹に続く獣、黙13:2参照)と同一視されている。

黙示録13章は、12章の拡大説明である。イエスを殺そうとし、昇天された後(黙12:3-5)から始まる。最初の節は、1260年間にわたる教会への攻撃について展開し、残りの節は、「竜は女に対して激しく怒り、その子孫の残りの者たちと戦おうとして出て行った」(黙12:17)ときに起こる出来事に焦点を当てている。



蛮族の侵入後、ローマ帝国は分裂した。ローマ帝国は少しずつ教会の手に委ねられ、その結果、教会は政治的権力を手に入れ、信仰深い教会を迫害する冒瀆的な権力となった(黙13:4-8)。



火曜日

神の言葉の真理よりも大切に
してしまいがちなものがある
とすれば、それは、何だ
と意思いますか？

癒えた傷

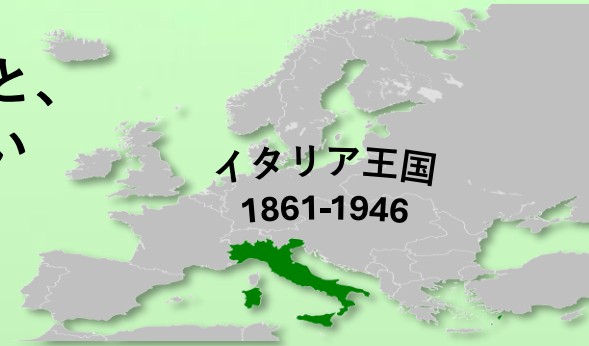
捕らわれるべき者は、／捕らわれて行く。剣で殺されるべき者は、／剣で殺される。
ここに、聖なる者たちの忍耐と信仰が必要である。(黙示録 13:10)

何世紀にもわたり、その権力を用いて「捕え」「剣で殺す」(黙13:10)ことを行ってきたローマ教会自身が、(そのトップであるピウス6世が)捕えられ、「致命傷」(黙13:3)を負った。



教皇は1870年まで教皇領の所有権を維持していたが、イタリア王国が誕生すると、ついにすべての領土を失った。当時、教会がかつての権力を取り戻すことはないと思われていた。

1929年、バチカン市国は独立国家として承認された。傷は癒え始めていた。そして、これから何が起こるのか？



最終的な出来事が展開される中、世界的な危機に対する解決策を提案する世界の指導者が求められるだろう。教皇庁が提示する解決策のパッケージの中には、家族、民族、国家が結束するための強力なポイントとして、日曜日の休息が含まれていることは間違いないだろう。

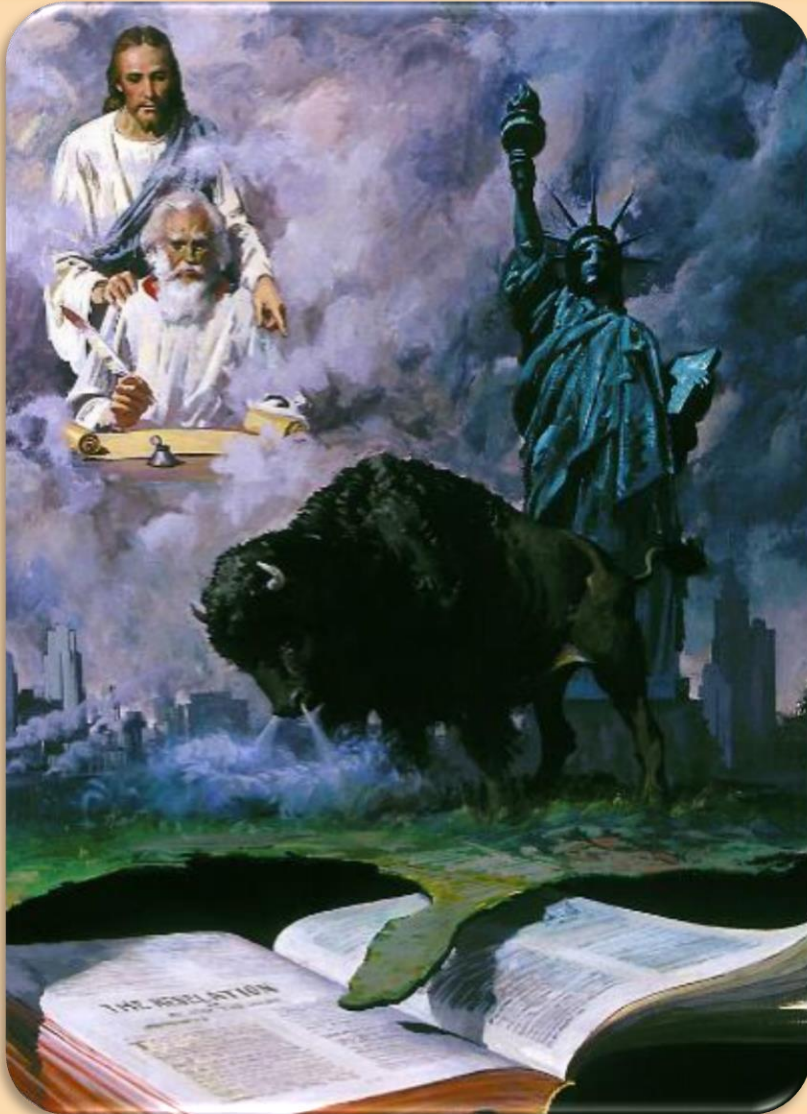


水曜日

信仰を守ることと、
善良な地域社会の一員であることは、
両立できますか？

小羊と竜

わたしはまた、もう一匹の獣が地中から上って来るのを見た。この獣は、小羊の角に似た二本の角があつて、竜のようにものを言っていた。(黙示録 13:11)



最初の獣は、イエスが設立した教会の腐敗から生じた。彼女が傷を負ったとき、サタンは彼女の身代わりとなって彼女を癒す「偽預言者」を探した(黙13:11; 16:13)。ここでもサタンは、キリスト教の純粋な原則に基づいて生まれた国から味方を見つけた：北米である。

彼はイエス(小羊)を模倣することから始めた。それは共和制国家(王なし、王冠なし)であり、政治と宗教の2つの権力(角)の分離に基づいている。

第一の世界権力者として、獣はすでに竜のように語り始めている。まもなく、教皇庁を支持する宗教的な事柄に関する法律を作り始め、「獣の像」を作り出すだろう(黙13:12-14)。



木曜日

現在の米国の状況に、
将来、米国がサタン悪魔の惑わしに
よって果たしていく役割を
垣間見ることはできますか？

「この獣の像は、同じような力を持つ別の宗教組織を表している。その像は子羊のような獣によって作られている。この子羊のような獣は、平和で穏やかに見える米国の象徴である。米国の諸教会は、信仰という共通の利益に基づいて団結する。そして団結したこれらの教会は、宗教法を施行し、教会組織を支援するよう政府に影響を与えるだろう。そうなれば、プロテスタントのアメリカはローマ法王庁のイメージを形成することになる。その時、真の教会は過去の神の民と同じように迫害されるだろう。」